

# 印刷けんぽ

新年特別号

ニュース No.210

全国印刷工業健康保険組合  
東京都台東区東上野1-7-2  
☎03-5834-3180  
令和6年1月1日発行

<http://www.insatukenpo.or.jp>

## 年頭のご挨拶(年頭所感)

理事長 佐野 栄二



明けましておめでとうございます。

新しい年を迎え、謹んでお慶び申し上げます。また、平素より当組合の事業運営に格別のご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症につきましては、昨年5月8日に、5類に移行し、基本的な感染症対策については、個人の自主的な判断に任されるようになりました。現在のところ、感染者数は減少傾向にありますが、今後、本格的な冬に向かい感染拡大も懸念されるところです。

また、インフルエンザは、例年になく早く、昨年10月から流行が始まり、現在も継続しているところです。今後、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行にならないためにも、手洗い、換気等の感染症予防対策に引き続き努めていただきますようお願いいたします。

一方、当組合の令和5年度の予算ですが、実質収支で700万円の黒字となりまして、平成27年3月の事務組織の大改革から9年連続の黒字を見込んでいるところです。

しかしながら、急激に進んでいる少子高齢化の中で、高齢者医療制度への納付金等については、今後も大幅な負担増が見込まれ、また、医療保険制度の支え手である現役世代はますます減少していくこととなります。持続可能な社会保障制度を構築していくためには、「社会保障を支えるのは若い世代で、高齢者は支えられる世代である」という従来の考え方をあらため、年齢に関係なく、すべての国民がその能力に応じて負担し、支え合うことが必要不可欠でございます。

このようなことから、国は昨年5月に後期高齢者の保険料負担の見直し等の法案を成立させ、現役世代の負担軽減を進める方向に舵を切ったところですが、これだけではまだ十分とは言えません。当組合といたしましては、今後も、組合財政の早期健全化を果たすべく、公費負担の拡充等、医療保険制度の抜本的改革を国に対して働きかけていく所存でございます。

そして、皆さんもご存じのことと思いますが、国は今年の秋に被保険者証を廃止するために、マイナ保険証の利用促進に向けて取り組んでいるところです。医療の効率化を進めるうえでは、医療DXは欠かせないものですが、これが実現するまでには、解決しなければならない課題が山積しております。当組合といたしましては、皆様からお預かりしているデータの正確性を担保することはもちろん、しっかりとその動向についても注視し、的確な情報をご案内させていただく所存でございます。

皆様方におかれましても、引き続き、当組合の事業運営に絶大なご支援、ご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、今年が皆様にとってよき年になりますことをお祈り申し上げまして、年頭の挨拶とさせていただきます。



